



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 木の探求 】

設定した理由・背景

お泊り保育で奥多摩のキャンプ場に行き木造のログハウスに泊まった。キャンプ場には木が多く、普段とは異なる環境に、子ども達は様々な刺激を受けた。

用意した環境設定

- ・木の模様から木製品に気付く姿が見られたので、物作りも行えるよう環境設定した。
- ・購入物品
毛糸、グルーガン、工具、ボンド、ペンキ、はけ、三脚、チェキ等

活動のあゆみ

8月1日、2日 奥多摩にキャンプ場にてお泊り保育

1 1月下旬：子ども達からお泊り保育の話が出る

1 2月：お泊り保育の写真を見て、周辺に木が多かったことやログハウスが木で出来ていることに気付き興味を持つ。

1 月：①身近に木目がある家具や壁があることに興味を持ち、擦りだしながら探す。

②戸外活動でどのような木があるか探す。

2 月：①拾ってきた木で自由に製作する。

②椅子作り開始。

3 月：釘の打ちやすさや手順を考えながら椅子作りを行う。

自分で作った椅子に座って卒園式に参加する。

※探究活動の実績※

保育者からの「お泊り保育でどんなことをしたか？」という問いかけ⇒「山を歩いた」「木がいっぱい」「お泊りしたところも木で出来ていた」等の声があがる。

◎子ども達の様子◎

『木は落ちてた？』⇒「生えてた」「落ちているのもあった」

『保育園のテーブルも木だよ？』⇒「違う」「同じだよ」「これは切ったやつ」

『他にも周りに木はある？』⇒「いす」「壁」「公園の木」

⇒子ども達の関心は自然の木と、身の回りの木で出来ているものの関連に広がっていった。戸外活動では生えている木には実がついたり、花が咲いたりするものがあったり、切り株には年輪があることを発見した。その後は拾ってきた木で簡単なクラフトを行ったり、椅子作りを行ったりした。椅子作りでは釘が打ちやすい場所と打ちにくい場所があることに気付いて力を入れたり、背もたれの位置を調整したりと工夫する姿が見られた。



戸外活動で様々な木の違いを伝えあう



木に装飾をして飾りを作る



釘を打ったりペンキを塗って椅子を作る

まとめ

木の探求を開始した当初は、枝や木の皮、葉など生えている様子、成長による変化等に興味が広がると予測していたが、子ども達は物作りの方に意欲的に取り組んでいた。今回は、木の変化や成長といった自然界での様子には発展しなかったが、子ども達の探求心に沿って進めることが出来たと感じている。テーマの設定時に、子ども達が何に興味を持っているか、どのような方向に進んでいくか等を見極めることで、より内容の濃い探究活動に繋がられるのではないかと感じた。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 川（水）の探求 】

設定した理由・背景

お泊り保育で奥多摩の川に入って遊び、川や水に興味をもったことからテーマを設定

用意した環境設定

- ・より興味を持って取り組めるよう、近隣の川の探求を行った
- ・購入物品
雨どい、水槽、カラーボール、トレース台、
カラーボール、絵の具、ホワイトボード、
模造紙、虫眼鏡

活動のあゆみ

- 8月1日、2日 奥多摩にキャンプ場にてお泊り保育
楽しかったお泊り保育の話をし、戸外活動でも川の様子を見る。
- 12月：図書館で川の本を借りたり、子どもの間で川の始まりがどこかという話が出たりする
- 1月：①近隣の川のはじまりを探しに行く（辿り着けず）
②①を踏まえて子ども達で出発時間を相談し再度川のはじまりを探しに行き、公園の池の地下水から来ていることを発見
- 2月：戸外活動の度に川を観察。いつもとは逆に流れていること気づき、流れに興味を持つ
- 3月：①雨どいで川を作る。流れを起こすために様々な工夫をする
②透明の水が、本当に存在していることを人に伝える方法を考え実践してみる。
③卒園遠足で多摩六都科学館に行き、地域の川の生き物について知る

※探究活動の実績※

保育者からの「お泊り保育で何が楽しかった？」という問いかけ⇒「川遊び」「水が冷たかった」

◎子ども達の様子◎

『その水は何の水？』⇒「富士山」「雪が解けた」「トイレの水」

『保育園の近くの川と違う？』⇒「違う」「水が少ない」

『川のはじまりってあるのかな？』

⇒子ども達からは様々な意見がでたが、答えが分からないので実際に目で確かめに行くことにした。川のはじまりは公園の池の地下水だった。途中、池と川の間には道路があり川が見えなくなったが、「この下を水が通ってるんだよ」と子どもたちなりの予測を立てていた。戸外活動中に川が逆流しているのを発見すると、流れに興味を持ち、雨どいに水を流してせき止めたり空気を送ったりして、流れを変える方法を探っていた。戸外活動に出る度に川の様子を気にするようになり、卒園遠足で訪れた科学館では川の生物にも興味を持っていた。



お泊り保育で川遊びをする子ども達



川のはじまりを求めて歩く



多摩六都科学館で水辺の生物を見る子ども達

まとめ

川で遊んだ活動をきっかけに、子ども達の興味は、近隣の川の流れや橋、水位の目盛りなど様々な点に広がっていき、保育者の想定外の範囲外にまで子ども達の探求心が膨らんでいた。型にはまることのない子ども達の探求心を受け止め、より深く掘り下げていけるよう、保育者も「なぜ」「どうして」という疑問も持ち続けたいと感じた。